様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ０１００２

研究課題名（和文）人文資料形成史における博物館学的研究 - 根岸有山・武香旧蔵資料の研究と公開

研究課題名（英文）Museological Studies in the Formative History of Human Materials - Research and Public Access to the Former Collections of Yuzan Negishi and Takeka.

研究代表者
内川　隆志（UCHIKAWA, TAKASHI）

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：８０１７６６７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：埼玉県熊谷市の名家である根岸家12代当主の根岸武香が蒐集した考古コレクションの内容を明らかにすることができた。さらに彼を取り巻く好古家ネットワークの実態を明らかにできた点も重要である。研究の初期段階で根岸武香自身が記録したコレクション図譜である『榧園好古図譜』が発見されたことによって比較研究が可能となった点は大きな成果である。また、根岸家に残る明治20年代に建てられた根岸武香のコレクションルームである「古器物陳列場」の現状を詳細に記録できた点も日本博物館学史上重要な資料を蓄積できた。最終年度には國學院大學博物館において「榧園好古図譜　北武蔵の名家根岸家の古物」を開催し成果を公表できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、近代博物館揺籃期において博物館創設、文化財行政制度の構築に多大なる影響を及ぼした幕末維新期からの好古家の功績を考究することを目的としている。その一人である根岸武香の好古家としての実態を、彼が残した実物資料によって解明できた点は学術的に重要な成果と言える。特に『榧園好古図譜』を発見し、実物資料との比較検討が可能となった点は、今後の研究に裨益する重要なものとなっている。また、明治20年代の個人コレクションの公開施設である「古器物陳列場」の３D計測による詳細な記録は、日本博物館史に新たな資料を提供できた。

研究成果の概要（英文）：We were able to reveal the contents of the Archaeological collection collected by Takeka Negishi, the 12th head of the Negishi family, a prominent family in Kumagaya, Saitama Prefecture. Furthermore, it is important to note that we were able to clarify the reality of the network of Antiquarians urrounding him. The discovery of “Hien Kozufu,” a collection of illustrations recorded by Takeka Negishi himself, has made comparative research possible, which is a significant achievement. It is also important to note that we were able to document in detail the current state of the antiquities display area, Takeka Negishi's collection room, which was built in the Meiji 20s and remains in the Negishi family. In the final year of the project, Treasures of the Negishi Family, a prominent family in Northern Musashi” was held at Kokugakuin University Museum, and the results were made public.

研究分野：博物館学

キーワード：根岸武香　根岸友山　胄山文庫　榧園好古図譜　古器物陳列場　武装男子埴輪　モース　新編武蔵風土記稿

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は、近代博物館揺籃期において博物館創設、文化財行政制度の構築に多大なる影響を及ぼした幕末維新期からの好古家の功績を考究することを目的としている。近代博物館制度ならびに文化財保護制度は、殖産興業政策の下、西欧を見倣い明治新政府の号令一下創設されたかに映るが、実際には町田久成に代表されるように国学の伝統を身につけた数多の好古家の協力と実践なくしてはなしえるものではなかった。本研究では特に埼玉県熊谷の好古家、根岸友山（1810–1890）、根岸武香（1839-1902）父子に焦点を当て、今も根岸家に現存する古器物、記録類の実態と根岸父子と交流のあった知識人同士のネットワークを追求しその実態を顕かにするものである。冒頭に記した従来の日本博物館史研究で顧みられなかったこの視点は、近代博物館形成史、文化財行政史のみならず、揺籃期における人文科学そのものの成り立ちを考える上でも重要である。

２．研究の目的

研究の主眼は、友山、武香父子が蒐集した古物の一部と公開施設が記録類と共に、生家である根岸家に多数現存している点に着目し、これらの整理作業を通じ、具体的な資料評価ならびに古物を介した好古家同士の人的ネットワークを追求する点にある。つまり実物資料に直接対峙し、社会的背景を含めた個別具体的な史実を顕かにし、日本博物館学史に新たな知見を加えることを目的としている。

３．研究の方法

特に根岸家に現存している資料を核に、以下に示した点について研究を実施し、その成果から根岸友山、武香をめぐる幕末維新期における知識人ネットワークを顕かにする。

(1) 根岸家所蔵資料の悉皆調査（埴輪関係・縄文遺物関係・古墳時代遺物関係・工芸品関係・外国資料。文書・書籍関係・その他関連資料）並びに目録作成、写真撮影、実測図作成を実施し、詳細な資料評価を含む報告書の刊行。

(2)根岸友山、武香関連文献調査の実施と事績の確認。

(3) 根岸友山・武香旧蔵資料の悉皆調査。

(4) 根岸家の公開施設である「古器物陳列場」の詳細記録の実施。

４．研究成果

令和 3（2021）年～令和 5(2023)年度の 3 ヵ年に亘る研究の経過としては、令和 3（2021）年度は研究協力者の新井端氏がすでに着手していた根岸家資料に関して再度検証し、未着手の資料の確認ならびに資料化の方向性を決定し、具体的な調査研究に着手した。研究が初動した時点で、偶然にも昭和 30 年代まで根岸家に存在した根岸武香の蒐集品図録である『樋園好古図譜』の入手という好機に恵まれ、コレクションの総体が確認できることと実物との対比が可能となったのである。同年 9 月に実施した悉皆調査では、同家蔵中より根岸家と交流のあった松浦武四郎が描いた「アイヌ舞踊の図」が発見された。同図は明治 14（1881）年に根岸大兄（友山か）に宛てたため書きがあるもので、明治初期を代表する松浦との交流を示す重要な

『樋園好古図譜』

資料となった。これに関しては、各年度毎に刊行している『人文資料形成史における博物館学的研究 - 根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開 - 』I に五十嵐聡美が「根岸武香旧蔵松浦武四郎画『アイヌ舞踊の図』について」を『熊谷市史研究』第 15 号に「『北海道土人図について - 松浦武四郎から』根岸家へ-」を発表し、詳細を分析している。その他、令和 3（2021）年度の研究成果として前掲書 I には、「根岸邸の古器物陳列場について」（新井端）、「根岸武香旧蔵の重圏文鏡について」（徳田誠志）、「『榧園好古図譜』に所載された和鏡について」（内川隆志などを公表している。

令和 4（2022）年度は、『人文資料形成史における博物館学的研究 - 根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開 - 』II に、明治 11(1878)年に根岸家を訪問している H.v.シーボルトとの関連で、古銭蒐集においても縁のあった H.v.シーボルトの在外古銭資料調査報告を掲載した。本報告はドイツのイエナ大学東洋貨幣陳列室が所蔵する、H.v.シーボルトが当時のドイツ皇帝の弟であるザクセン＝ヴァイマール太公カール・アレクサンダーに贈った古銭コレクションを検証したもので、当時の好古家が熱狂した古銭蒐集の一端を明らかにする事ができた。その他に、「『榧園好古図譜』第一冊について」（内川隆志・樋口典昭）では、根岸武香のコレクションを代表する武装男子埴輪（重要文化財）を含む埴輪が多く掲載された『榧園好古図譜』第一冊を検証し、掲載資料と根岸家ならびに各地に確認できる現存資料を対比する事ができた。また、「船木遺跡出土『田村墨書須恵器』について」（新井端）では、『榧園好古図譜』第一冊に所載される須恵器の詳細な情報が整理できた。

令和 5（2023）年度は、『人文資料形成史における博物館学的研究 - 根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開 - 』III には、弘前大学が所蔵する蓑虫山人が描いた埴輪群像図に関して根岸武香との交流の観点で画像を解析した「弘前大学所蔵「成田彦栄氏旧蔵『蓑蟲山人筆　埴輪写生図』について」（新井端）、『榧園好古図譜』の絵師を推定した「『榧園好古図譜』と柏木貨一郎」（内川隆志）、明治 9（1876）年に埴輪が大量出土した中条古墳群を検証した「埼玉県熊谷市中条古墳群出土埴輪の考古学史的意義」（徳田誠志）による論考、『榧園好古図譜』第二冊に所載される金工品である懸仏について検証した「『榧園好古図譜』所載の中世在銘金工品」（深澤靖幸）、建築史学の専門家の視点で古器物陳列場を詳細に記録し、その創建年代や構造を明らかにした「根岸家古物陳列場の建築について」（金出ミチル）、三浦康之は、研究分担者として根岸武香をめぐる人的ネットワークを研究した成果として「京都の学塾山本読書室と“古物蒐集家”松浦武四郎」（三浦康之・山本命）を発表し、好古家どうしのネットワーク研究に新たな知見を加えた。

また、研究成果の公開として國學院大學博物館において企画展「榧園好古図譜 - 北武蔵の名家根岸家の古物 - 」（会期　令和 6 年 2 月 17 日(土) ～ 4 月 14 日(日)）を実施し、オンラインミュージアムによる展示解説（内川隆志）、2 回のミュージアムトークによる解説（内川隆志・三浦康之）を実施した。

研究報告書ならびに展示図録

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 内川隆志・樋口典昭	４．巻 2
２．論文標題 『榧園好古図譜』第一冊について	５．発行年 2023年
３．雑誌名 人文資料形成史における博物館学的研究ー根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開ーII	６．最初と最後の頁 39－70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 新井端	４．巻 2
２．論文標題 船木遺跡出土「田村墨書須恵器」ついて	５．発行年 2023年
３．雑誌名 人文資料形成史における博物館学的研究ー根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開ーII	６．最初と最後の頁 71-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 新井端	４．巻 15
２．論文標題 北海道土人図」について　松浦武四郎から根岸家へ	５．発行年 2023年
３．雑誌名 熊谷市史研究	６．最初と最後の頁 84-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三浦泰之	４．巻 80
２．論文標題 松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(9) -補遺とまとめ-	５．発行年 2022年
３．雑誌名 松浦武四郎研究会会誌	６．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三浦泰之	4．巻 81
2．論文標題 史料紹介 小林房太郎「松浦武四郎翁遺著」(上)・(下)	5．発行年 2022年
3．雑誌名 松浦武四郎研究会会誌	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 内川隆志	4．巻 1
2．論文標題 『樋園好古図譜』に所載された和鏡について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人文資料形成史における博物館学的研究　根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開 Ⅰ	6．最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 新井端	4．巻 1
2．論文標題 根岸邸の古器物陳列場について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人文資料形成史における博物館学的研究　根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開 Ⅰ	6．最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 徳田誠志	4．巻 1
2．論文標題 根岸武香旧蔵の重圏文鏡について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人文資料形成史における博物館学的研究　根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開 Ⅰ	6．最初と最後の頁 12-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五十嵐聡美	4．巻 1
2．論文標題 根岸武香旧蔵松浦武四郎画「アイヌ舞踊の図」について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人文資料形成史における博物館学的研究　根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開 Ⅰ	6．最初と最後の頁 32-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

好古家と近代博物館の形成
http://hcra.sakura.ne.jp/hvsiebold/

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	三浦　泰之 (MIURA YASUYUKI) (50300843)	北海道博物館・研究部・学芸主幹 (80101)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関